浜松医科大学医学部附属病院 広報誌

はんだ山の風

2022 AUTUMN
第48号

卒後教育センター
個人にあったオーダーメイドな研修プログラムで日々研鑽しています

2022年 初期研修医

※撮影時のみマスクを外しています

Contents

P.2 新任准教授の紹介
輸血･細胞治療部　部長　准教授　造血細胞移植センター　センター長　小野 孝明
卒後教育センター　副センター長　特任准教授　大橋　温

P.4 HCU（高度治療室）の紹介　HCU（高度治療室）　副室長　特任助教　関原 圭吾

P.5 シリーズ最新医療 Vol.34「呼吸器外科分野ロボット支援下手術の現状」
外科学第一講座　病院教授　船井 和仁

P.6 薬剤部「保険薬局との地域連携　～切れ目のない安全ながん化学療法の提供を目指して～」
薬剤部　薬剤主任　佐藤　聖

P.8 栄養部「本院の患者給食について」　栄養部　統括主任管理栄養士　赤井 達哉

P.9 看護部「赤ちゃんとご家族の時間を大切にしたNICU･GCUの実現へ」　NICU･GCU　スタッフ一同

P.10 腫瘍センターだより「世界に冠たる腫瘍センターを目指して」
腫瘍センター　センター長　外科学第二講座　教授　竹内 裕也

P.12 浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内（第20･21･22回）　医療福祉支援センター地域連携室

P.12 病棟のご案内

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構

当院は日本医療機能
評価機構認定病院です。
（一般病院3）

病院紹介動画は▶
こちらから

新任准教授の紹介

輸血・細胞治療部のさらなる発展を目指して

輸血・細胞治療部　部長　准教授
造血細胞移植センター　センター長　小野 孝明

令和4年（2022年）4月1日付で輸血・細胞治療部准教授（造血細胞移植センター長兼任）を拝命しました小野 孝明と申します。私は三重県伊勢市出身で、平成9年（1997年）に本学を卒業後、第三内科（血液内科）に入局しました。その後は、聖隷浜松病院や名古屋第二赤十字病院（現日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院）に勤務し、特に同種造血幹細胞移植の研鑽を積みました。平成18年（2006年）から本学附属病院に勤務し、移植医療の整備（県西部地区での移植方法の統一化、臍帯血移植の導入、造血細胞移植コーディネーターの採用と教育、本院造血細胞移植センターの発足、厚生労働省の造血幹細胞移植推進拠点病院事業）に積極的に携わってきました。また、平成28年（2016年）から令和3年（2021年）は血液内科 診療科長として内科学第三講座 教授 前川裕一郎先生のご指導のもと、血液内科の医局運営に取り組んでまいりました。

私は、輸血と細胞治療分野に分けて目標を掲げています。輸血分野においては自己血輸血も含めた輸血療法の安全性を確保して適正使用を推進するとともに、輸血製剤を使用する科のニーズにスムーズに応えるための基盤整備を進めていきたいと思っています。

一方、細胞治療分野では、悪性リンパ腫や急性リンパ性白血病等の血液悪性腫瘍に対する最新のがん免疫療法であるキメラ抗原受容体T細胞（CAR-T細胞）療法の推進が目標です。本院は静岡県でCAR-T細胞療法が実施可能な数少ない施設です。治療に関わる多職種チームを立ち上げて、治療を必要とする患者さんのニーズに応えていきたいと思っています。

今後も現場スタッフの方々にご指導を仰ぎながら、本院の輸血・細胞治療の発展に尽力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任准教授の紹介

温故知新の若手医師教育を目指して

卒後教育センター　副センター長　特任准教授　大橋　温

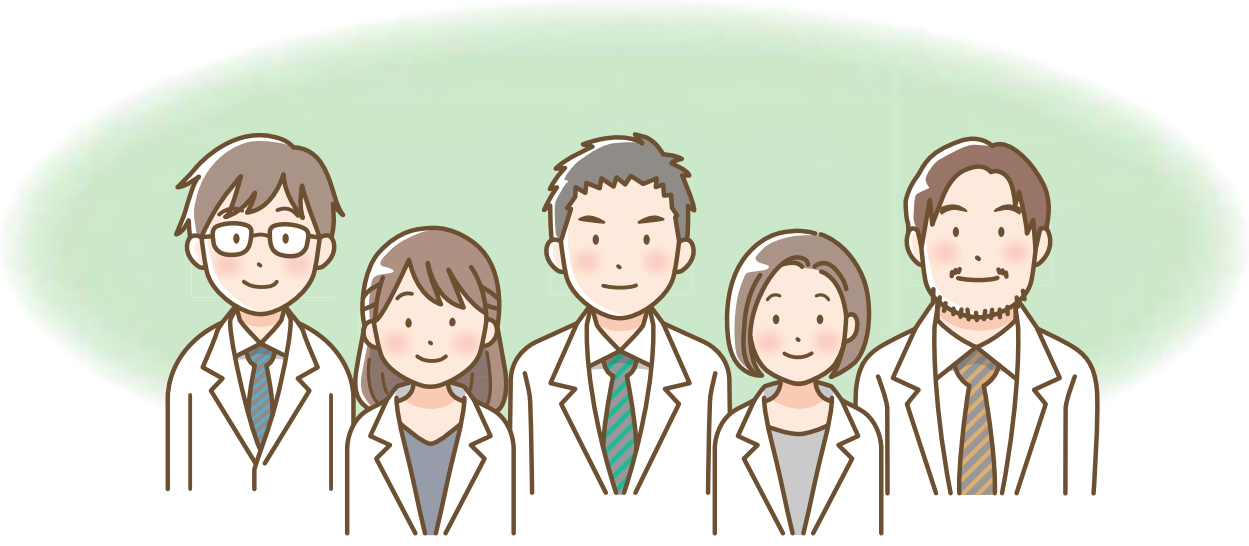
令和4年（2022年）4月1日付で卒後教育センター特任准教授を拝命しました大橋 温と申します。私は名前の読み方が若干変わっておりまして、「なろう」と言います。これは、国文学者であった母が、儒教の開祖である孔子の論語にある「温故知新」から名付けてくれたと聞いています。「温故知新」は、通常、「故きを温めて新しきを知る」とか、「故きを温ねて（たずねて）新しきを知る」と読みますが、「故きを温う（なろう）て新しきを知る」とも読むことができるそうで、学ぶこと、学習することの大切さを、名前をもって示してくれた訳です。

私の医師生活を振り返りますと、平成8年（1996年）に浜松医科大学を卒業後、本学第一内科（腎臓内科）に入局し、本学と東京都大森赤十字病院で各々1年間ずつ研修医として、更にはその後、聖隷浜松病院で腎臓内科医として勤務させていただきました。この間、たくさんの先生方、メディカルスタッフの方々、患者さんやご家族の皆さんから、実に多くのことを学ばせていただきました。そしてそれを礎にして、本学大学院、更には米国Tulane大学への留学などを通じ、より新しい医学を知ることに邁進してまいりました。

現在の卒後教育センターは、医師として歩き始める研修医の先生方、ご自身の選択された専門性の修練を始める専攻医の先生方が、先人達の残した膨大な医学の知識・技術を学習して、次世代の新しい医学を作っていく成長の過程を共有することができる、大変重要でやりがいのある仕事だと思っています。

松山幸弘病院長、須田隆文卒後教育センター長のご指導のもと、一人でも多くの若手医師が本院で楽しく輝いて医療ができるよう、最大限努力してまいりたいと思っております。

引き続き、皆様方のご支援ご協力のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。



HCU（高度治療室）の紹介

HCU（高度治療室）　副室長　特任助教　関原 圭吾

はじめまして、令和4年（2022年）4月1日付でHCU副室長を拝命しました関原と申します。松山幸弘病院長より第47号「進化し続ける浜松医大附属病院」の中で紹介いただきましたが、5月9日より高度治療室（HCU）8床が稼働いたしました。

「HCU」の名前の由来は「High Care Unit」の頭文字から来ています。日本語では「高度治療室」と言われています。ICU（集中治療室）と一般病床の中間にあたる高機能病床です。看護配置はICUでは入院患者2人に対して看護職員1人、HCUでは4対1、一般病棟は7対1になっています。本院では今まで12床のICUが稼働していました。これに加えてHCU 8床が新設され、より多くの重症の患者さんに、より良い高度な医療がいきわたるようになりました。

ICUでは、生命の危機に直面した重症患者さんが入室します。一方、HCUはICUにいる患者さんと比べると重症度は低いけれども、急に状態が悪くなる危険があったり、一般病棟ではケアが難しかったりする患者さんが入室します。肺がん、交通事故、心筋梗塞、脳卒中、どんな病気の患者さんでも重症になるリスクが高いと判断されれば、HCUでの治療が可能です。なお、5月の稼働直後から多くの患者さんを受け入れております。

HCUの特長としては診療報酬の加算日数が21日までであることも挙げられます。（ICUでは診療報酬の加算日数は14日までです。）たとえば、ICUで14日間治療して、まだ不安定な状態が続く場合はHCUで7日間治療し、一般病棟へ転室するという流れになります。より長期に手厚い治療を行えることで、一度は命の危機に瀕した状況になってしまっても、救命だけでなく、家族と過ごす日常生活に戻り、社会復帰することを目標にできます。

さて、現在も収束のめどがたたないCOVID-19、世界中で流行して早くも3年が経過します。空気感染対策を必要とする特殊な病床の確保は社会問題となって久しいです。新設したHCU 8床のうち、4床では人工呼吸器を必要とするような重症COVID-19患者さんの受け入れも見据えて、部屋を陰圧に保つことができます。これら4床には通常の病棟と空間を隔てるための前室も備えています。医療者が感染防護のために着替えるほか、患者さんがいる部屋から出たゴミを処理します。空気感染対策は近年注目されてきましたが、結核や麻疹（はしか）などにおいても古くから提唱されてきた概念です。COVID-19終息後も、有効に活用できることは間違いありません。

高度な集中治療、特に感染対策を要する場合には多くの人と物、空間が必要です。これらを満たしている高機能病床が新設されたHCUです。まだまだできたばかりの病床です。これからも、皆さんの貴重なご意見をいただき、より多くの方に「できて良かった」と思っていただける場所にしていけたらと、スタッフ一同考えています。医療関係者向けに施設見学も可能です。ぜひ一度お問い合わせ下さい。

HCU室内

HCU廊下

シリーズ 最新医療 Vol.34

呼吸器外科分野ロボット支援下手術の現状

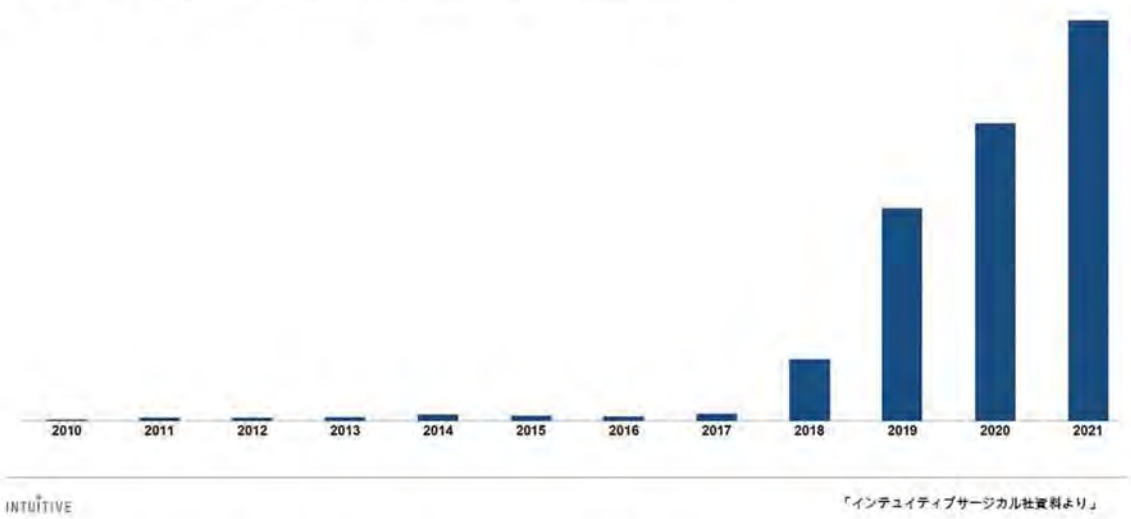
外科学第一講座　病院教授　船井 和仁

呼吸器外科分野のロボット支援下手術は、平成30年（2018年）4月に肺悪性腫瘍手術（肺葉切除術）と良性・悪性縦隔腫瘍手術が保険収載され、令和2年（2020年）4月からは肺悪性腫瘍に対する区域切除術と重症筋無力症に対する拡大胸腺摘出術が新たに保険適応となりました。平成29年（2017年）までは数えるほどしか行われていなかった国内での呼吸器外科ロボット支援下手術は平成30年（2018年）の保険収載以降、右肩上がりの増加を示しています（肺葉切除術、図１）。我々、浜松医科大学呼吸器外科では、平成30年（2018年）の保険収載に先立ち臨床試験として平成29年（2017年）7月からロボット支援下手術を始めたため、呼吸器外科ロボット支援下手術においては一日の長があります。

日本呼吸器外科学会ではロボット支援下手術を安全に導入するため、Certificate（認定資格）制度、プロクター（指導医）制度、メンターサイト（手術見学施設）を設けています。当科では私がプロクター資格を持ち、令和2年（2020年）4月からは静岡県内唯一であるメンターサイトに認定されました。これにより他施設の医師やコメディカルスタッフが本院にトレーニングの一環として手術見学に訪れ、令和4年（2022年）8月までに9例の術者Certificateを発行しました。

当科では3名が術者認定資格を持ち、助手の資格はスタッフ全員が持っており多くの手術をロボット支援下に行っています。特に最近、肺悪性腫瘍に対する区域切除術の有効性が臨床試験によって明らかになったため、今後は複雑区域切除と言われる難易度の高い手術が増えることが予想されます。鮮明な三次元立体映像を見ながら手振れのない高精細な鉗子の動きが可能なロボット支援下手術は、まさに高難易度の呼吸器外科手術にうってつけの術式だと思います。

図1　日本国内におけるロボット支援下肺葉切除術の推移



薬剤部

保険薬局との地域連携
～切れ目のない安全ながん化学療法の提供を目指して～

薬剤部　薬剤主任　佐藤　聖

令和4年（2022年）1月、静岡県下で初めて抗がん薬混合調製ロボット「ケモロ」が本院に導入されました。ケモロは「職人のような薬剤師の調製作業を可能な限り反映させた双腕ロボット」と言われ、導入により、これまで薬剤師が行っていた抗がん薬調製の40%以上を任せることが可能となり、活躍しております。

さて、抗がん薬混合調製ロボットをはじめ、他の薬剤師業務においても機械化が進むなか、がん化学療法における薬剤師の業務内容も「モノ」から「ヒト」に変化しつつあります。がん化学療法は、新規の経口抗がん薬の開発、副作用対策の進歩に伴い、外来がん化学療法が中心となっています。外来がん化学療法は、患者さんおよびそのご家族のライフスタイルを維持できる、家族という最も心休まる場所で治療を行うことができるという大きなメリットがあります。その一方で、入院治療とは異なり医療従事者が治療中の患者さんの体調変化にすぐに気づくことができず、副作用の重篤化を招くというリスクがあります。そのため、病院と抗がん薬や副作用対策の薬の処方箋を応需する保険薬局が連携し、外来がん化学療法を受けている患者さんやご家族をサポートすることが社会的にも求められるようになってきました。

その手段の一つに、「テレフォンフォローアップ」があります。ここで言う「テレフォンフォローアップ」とは、服薬状況や副作用症状の確認、患者さんの自己管理のサポートを目的に外来がん化学療法を受けている患者さんやご家族へ医療従事者から電話をかけることを意味します。薬局薬剤師が受診日と受診日の間に患者さんの状態を聴取することで、副作用の早期発見、服薬関連の問題の発見と対応、治療の理解や心理面のサポート

抗がん薬混合調製ロボット（ケモロ）全景

研修会の様子

にも有効です。しかし、薬局で働く薬剤師がテレフォンフォローアップを行うことは、簡単なことではありません。我々のように病院で働く薬剤師は、電子カルテから患者さんの治療内容、治療目的、全身状態、治療に影響を与える合併症や併用薬の有無などを把握した上で患者さんとの面談・指導に臨むことができますが、保険薬局では、ほとんどの場合、これらの情報を患者さんやそのご家族から得ることが大変困難な状況です。

こうした課題を解決すべく、本院では、外来がん化学療法の質向上のための地域薬局との連携体制の整備に取り組みました。具体的には、本院で実施される化学療法のレジメン（治療内容）情報を病院ホームページで閲覧できるようにするとともに、副作用の発現状況や治療計画等を記載した文書を患者さんに交付することで、適切な個人情報保護の下で、保険薬局に患者さんの状況・情報を共有できる体制を整えました。また、浜松市内の保険薬局を対象としたオンライン研修会やがん症例情報交換会を実施し、病院薬剤師と薬局薬剤師が気軽に意見交換できる環境下でがん薬物療法をともに学び、共有する機会を増やしました。こうした成果もあり、数年前まで年間数件程度であった保険薬局からのテレフォンフォローアップによる情報提供の件数が、最近では年間100件を超えるまで増加しており、その情報が処方提案として診療に活かされるケースもみられております。今後も我々は、地域の保険薬局と連携し、患者さんに切れ目のない安全ながん化学療法を提供できるよう、さらなる地域連携の体制整備に尽力していきたいと考えております。

情報交換会の様子

本院の患者給食について

栄養部　統括主任管理栄養士　赤井 達哉

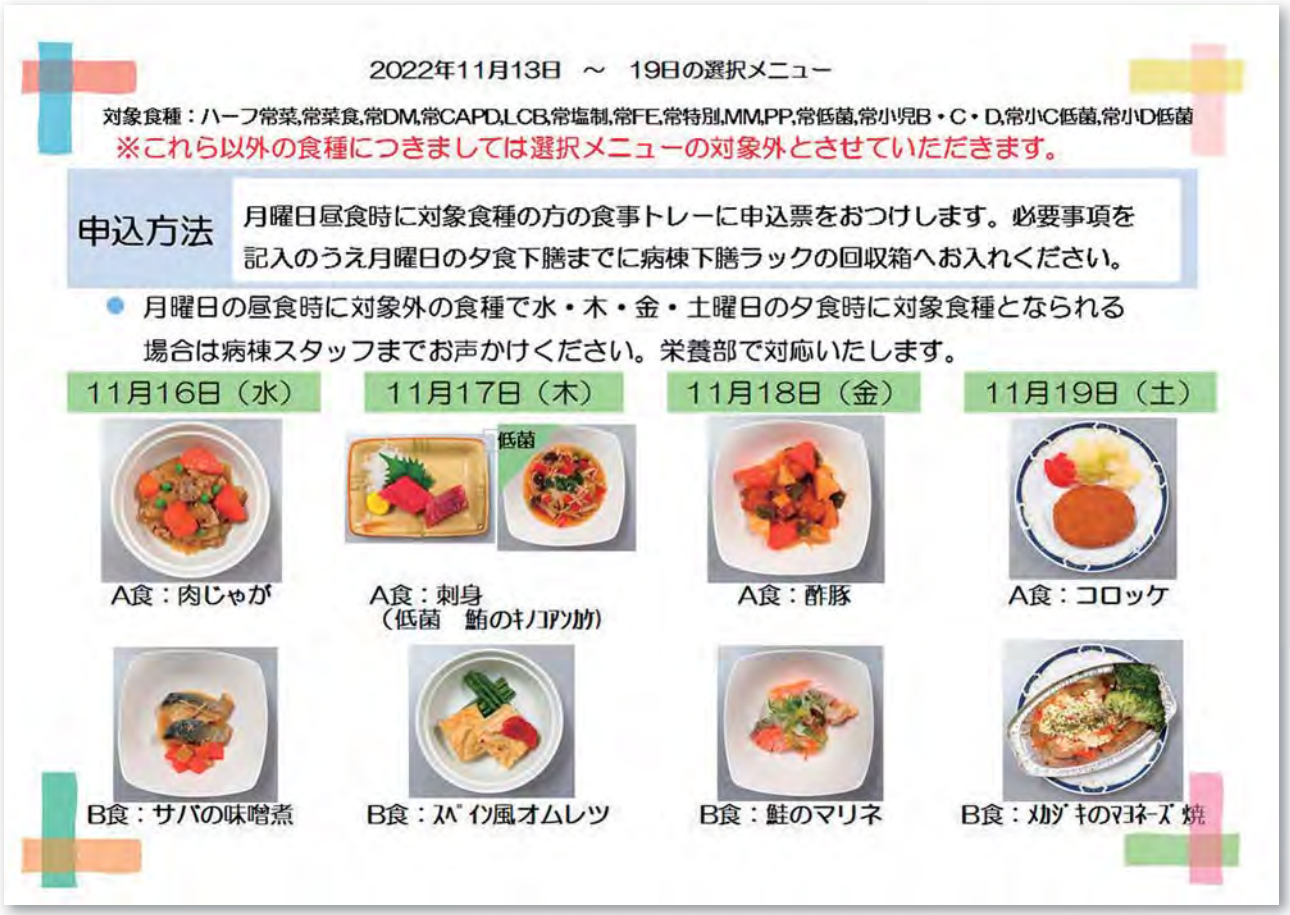
本院の患者給食業務は、病院スタッフと委託会社スタッフ双方で業務を区分して行っています。病院スタッフは主にクックチル※を主体とした調理業務を行い、委託スタッフは食材の仕込作業、食材や料理の病棟への搬送、病棟厨房での盛付、ベッドサイドへの配膳や食器洗浄などの周辺業務を行っています。

クックチルは提供日に限らず事前調理ができるため、従来の当日調理に比べ作業時間の制約が少なく余裕を持った作業をすることができます。ただし、揚物などはクックチルに向かないため当日調理で対応しています。また、米飯については炊きたてを食べていただきたいという思いから各病棟厨房で盛付作業に合わせて炊飯するようにしています。

食事オーダでの主食や飲み物を選べる仕組みに加え、常菜の食種に限定しての実施となりますが、水、木、金、土の夕食の週4回、患者さん自身に選んでいただく選択メニューを食事の楽しみの一環として実施しています。肉料理や魚料理、卵や豆腐料理などの2種類からお好みで主菜を選んでいただけるようにしています。

その他、食物アレルギーへの対応や食形態の変更、補食の追加など患者さんの状況に応じた対応を行っています。

※クックチル:加熱調理後90分以内に3℃以下まで急速冷却、保管しておき再加熱して提供する方法。急速冷却により細菌の増殖しやすい10～60℃を短時間で通過でき、加熱日から5日間までは安全な状態で保存が可能。



選択メニュー

看護部
Heart Art Life

赤ちゃんとご家族の時間を大切にしたNICU・GCUの実現へ

NICU・GCU

NICU（新生児特定集中治療室）には、予定日より早く産まれたり、体重が小さく産まれた赤ちゃん、何らかの疾患があるために集中的に治療・管理が必要な赤ちゃんが入院しています。GCU（新生児治療回復室）ではNICUで治療を受け、状態が安定してきた赤ちゃんが引き続きケアを受け、お家に帰る準備をしています。

赤ちゃんがNICU・GCUへ入院することは、多くのご家族にとって予期しない出来事であり、母子分離を余儀なくされます。また、コロナ禍のため面会制限があり、赤ちゃんとご家族の時間を十分に作ることができていません。NICU・GCUは、家族の関係を育む場と共に養育の場の役割を担っています。そのため、このような状況下でも家族関係を育めるよう、入院早期より赤ちゃんと触れ合う時間を大切にしています。中でも、カンガルーケア（裸の赤ちゃんをご両親の裸の胸の上に抱いてもらう）は、肌が触れ合い、ぬくもりを感じることで赤ちゃんの安定にも役立つ大切なケアです。

NICU・GCUは令和4年（2022年）1月4日に先端医療センターに移転しました。旧棟はワンフロアで患者さん個人のスペースはかなり狭く、ベッドサイドでカンガルーケアを行う際は、工夫してなんとかスペースを確保していました。新棟では、個人のスペースが半個室となり、赤ちゃんとご家族だけの空間が確保できるようになりました。そのため、希望する時間にカンガルーケアを行ったり、ご家族が赤ちゃんの傍で触れ合ったりしながらゆっくり過ごせるようになりました。

退院に向けて24時間赤ちゃんと一緒に過ごす（母児同室）場合、今までは小児科病棟や産科病棟へ赤ちゃんを移動して実施していました。しかし、慣れた環境で退院に向けた準備をしたいという想いから、新棟では念願であった家族室を2室確保し、6月からGCUで継続して母児同室が行えるようになりました。

母児同室中には、お家に帰った後の赤ちゃんと一緒に過ごす生活を想定して育児を練習することができます。昼の面会時とは違った、赤ちゃんの夜の様子を知ることができ、夜中のお世話も体験できます。1泊ではご家族の不安が残る場合には、不安が軽減され自信をもって退院後の生活がスタートできるまで宿泊期間を延長するなど個別の対応も行っています。母児同室を実施したご家族からは、「夜間の赤ちゃんの様子など1日の様子が分かってよかった」「疑問に思ったことをすぐに聞くことができた」「帰宅後のイメージができた」「自分では気づけなかったことを教えてもらった」などの声が聞かれました。退院後も、小児科外来でNICU・GCUのスタッフがお家の様子を伺いながら、育児に対する不安の解消など、切れ目のない母子支援を行っています。

家族室の愛称を「ひまわり」とつけました。「あたたかい、明るく元気、大きく成長する」という思いを込めました。退院を迎えられた赤ちゃんとご家族の今後の生活がひまわりの花のようになることを願っています。私たちは、家族のはじまりをスタッフ全員で支え、ご家族が安心して育児の第一歩を歩み出せるよう支援していきます。

（スタッフ一同）

カンガルーケア

家族室

腫瘍センターだより

世界に冠たる腫瘍センターを目指して

腫瘍センター　センター長
外科学第二講座　教授　竹内 裕也

令和4年（2022年）4月に腫瘍センター長を拝命しました竹内裕也と申します。私の専門は消化器外科ですが、食道がんや胃がん、大腸がん、肝臓がん、膵臓がんのような消化器がんの患者さんに安全に留意してかつ侵襲の少ない外科治療（内視鏡手術やロボット支援下手術）を行うだけでなく、抗がん剤や免疫療法、放射線治療をうまく組み合わせて（集学的治療と呼びます）、患者さんにより良い治療を提供することを目指してきました。本院では、消化器がんのほかにも、肺がんや乳がん、泌尿器がん、婦人科がん、頭頸部がん、脳腫瘍、血液腫瘍などすべてのがんに対して高度な知識と技量のある専門医がそろっています。

本院は、このような質の高いがん診療を提供することができるように国が指定したがん診療の拠点病院で、静岡県におけるがん診療の拠点「地域がん診療連携拠点病院（高度型）」として活動しています。難治がんを含む悪性腫瘍に対する最新の画像診断やがん遺伝子パネル検査に加えて、手術、内視鏡治療、薬物療法、放射線治療など高度ながん治療を行っています。そして腫瘍センターは、これらの先進的・集学的がん診断・治療の充実を図るとともに、全人的緩和ケアの提供、がん医療の地域連携や患者さんへの相談支援、情報提供等を行なっています。

令和4年(2022年)1月から本院の先端医療センターが稼働し、その中で腫瘍センターもさらに充実いたしましたので少しご紹介したいと思います。

1．外来化学療法

外来通院をしながら抗がん剤や免疫療法の薬剤を点滴投与することは全身に潜むがん細胞をたたくための大切な治療の１つになります。本院ではこのような治療を毎月700件以上に行っております

新しくなった外来化学療法センター

が年々患者さんが増えていることから、本年より新しく広い部屋でベッド数を大幅に増やし、落ち着いた雰囲気の中でリラックスしながら治療を受けられるようになりました（写真）。がん専門薬剤師やがん薬物療法看護認定看護師が患者さんの薬の副作用や不安に対する細やかなケアを行っています。

2．緩和ケア

緩和ケアセンターでは、医師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、管理栄養士等が連携して、がん患者さんやご家族のさまざまな身体的・精神的苦痛、つらさに寄り添った緩和ケアを提供しています。年々依頼件数が増え、現在では年間300件前後の診療を行っています。

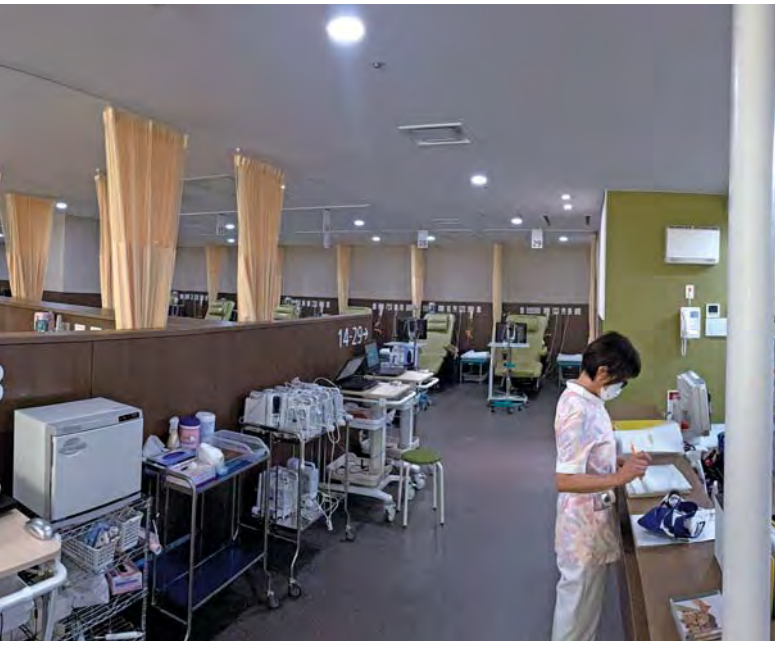
3．がん遺伝子パネル検査

患者さんのがんの特徴を遺伝子レベルで調べることで、その方に合う治療法がないかを検討する検査です。現在は月10～15件の検査を行っておりますが、高度な医療を提供する大学病院として、今後積極的にこの検査を行っていく予定です。

4．腫瘍センター外来の開設

難治がんや希少がん（比較的患者さんの少ないがん）、原発不明がん、肉腫などで困っておられる患者さんや、がんの痛みや苦痛でつらい生活を送っておられる患者さんのために、新しく腫瘍センター外来を開設いたしました。各部門のエキスパートが連携しながら、集学的治療や治験（新しい治療法による臨床試験）、がん遺伝子パネル検査等の最先端医療を提供いたします。良い治療が見つからず困っておられる患者さんがおられましたら、かかりつけ医にご相談の上、本院へご連絡ください。

腫瘍センターは、副センター長　柄山正人講師（呼吸器腫瘍医 がん薬物療法専門医）、北嶋　諒医師（緩和ケア専従医師）をはじめ多くのスタッフがチームワークよく患者さんの診療とケアを行っています。患者さん一人ひとりに寄り添った、より低侵襲でかつ最新の治療を提供してまいりますので、がんについてお悩みの方はかかりつけ医を通してご相談ください。



浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内（医療従事者向け）

診療科長の先生を中心に、本院の特長とも言える診療内容を紹介しております。
各医療機関の皆さまのご参加をお待ちしております。

開催回	開催日時	講　師	申込締切
第20回	9月28日(水) 19時30分～20時30分	 リハビリテーション科　病院教授 山内 克哉 先生 「サルコペニア・フレイルに対する リハビリテーション医療」	9月27日(火)
第21回	10月26日(水) 19時30分～20時30分	 輸血・細胞治療部　部長　准教授 小野 孝明 先生 「悪性リンパ腫治療のパラダイムシフト」	10月25日(火)
第22回	11月30日(水) 19時30分～20時30分	 外科学第二講座　准教授 菊池 寛利 先生 「上部消化管外科診療のご紹介」(仮題)	11月29日(火)

事前申し込み方法：メールまたは申し込みフォームにてお申し込みください。

詳細は本院ホームページ（地域連携Webセミナー）をご確認ください。

https://www.hama-med.ac.jp/hos/cent-clin-fac/med-welfare-sprt-ctr/reg-med-liaison/web.html

お問い合わせ：地域連携Webセミナー担当事務局（地域連携室内）

電話：053-435-2637　FAX：053-435-2849　（平日8：30～18：00）

E-mail：tiren-seminar@hama-med.ac.jp

病棟のご案内

令和4年(2022年)5月より臓器別に集約した病棟に再編しました。

	西病棟	東病棟
8F	精神科神経科	血液内科/麻酔科蘇生科/臨床薬理内科 緩和ケア/免疫・リウマチ内科
7F	腎センター	脳神経センター
	泌尿器科/腎臓内科	脳神経外科/脳神経内科 皮膚科
6F	骨関節・脊椎センター	頭頸部・再建外科センター
	整形外科	耳鼻咽喉科/歯科口腔外科 形成外科
5F	消化器センター	
	上部消化管外科/下部消化管外科 肝・胆・膵外科/リハビリテーション科	消化器内科/肝臓内科 血管外科
4F	小児科/小児外科	周産母子センター
		母子産科/NICU・GCU
3F	呼吸器センター	眼科/婦人科 乳腺外科/一般外科
	呼吸器内科/呼吸器外科 内分泌・代謝内科	
2F	ハートセンター	
	循環器内科/心臓血管外科	放射線診断科/放射線治療科/救急 循環器内科/RI・PDT/高度治療室(HCU)
1F	集中治療部(ICU)	手術部

発行／浜松医科大学医学部附属病院広報推進委員会
〒431-3192 浜松市東区半田山1丁目20番1号　TEL.053(435)2111(代表)　FAX.053(435)2153(医事課)　Hpアドレス／https://www.hama-med.ac.jp/

外来診療日一覧

2022.9.1現在

受付時間　午前　8時30分～11時　一般外来・専門外来
午後　0時30分～　2時　専門外来

休診日　土曜日および日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年1月3日

○：午前
◆：予約のみ

診療科名		診療日 初診 月	火	水	木	金	再診 月	火	水	木	金	備考
内科	**受付電話　435－2632**											
	一般内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	消化器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	腎臓内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午後のみ
	脳神経内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	水曜日：午前のみ
	内分泌・代謝内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
	呼吸器内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
	肝臓内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	
	循環器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火曜日：午後のみ
	血液内科	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午前のみ
	免疫・リウマチ内科	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
	臨床薬理内科	◆			◆	◆	◆			◆	◆	要問い合わせ
専門外来	炎症性腸疾患外来	◆		◆		◆	◆		◆		◆	
	家族性消化器腫瘍外来				◆					◆		
	脳神経病態外来	◆					◆					
	感染症専門外来			◆					◆			午後のみ
	禁煙外来	◆					◆					※2021.7～休診
	ペースメーカ外来											予約のみ　要問い合わせ
	ピロリ菌外来	◆										午後のみ
	合併症外来								◆			
精神科神経科	**受付電話　435－2635**											
	初診・再診		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	
専門外来	摂食障害専門外来								◆	◆		
	デイケア						◆			◆		※2020.4.28～休診
小児科	**受付電話　435－2638**											
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	内分泌・遺伝		◆					◆				
	内分泌		◆					◆				
	心臓				◆	◆				◆	◆	
	血液				※	※				◆	◆	※初診は随時電話で
	免疫・アレルギー	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
	神経	◆	◆		◆		◆	◆		◆		
	腎臓	◆			◆		◆			◆		
	新生児フォローアップ						◆	◆			◆	
	乳児検診	◆					◆					
	CCS外来									◆		第4週のみ
	特殊予防接種										◆	
小児外科	**受付電話　435－2638**											
	初診・再診		◆		◆		◆	◆		◆		
外科	**受付電話　435－2641・2642**											
	心臓血管外科	○		○		◆	○		○		◆	
	呼吸器外科			◆					◆		◆	
	乳腺外科	◆	◆	◆		◆	◆	◆			◆	水曜日：家族性乳腺腫瘍外来(午後)
	一般外科	○		○		○	○		○		○	
	上部消化管外科		◆	◆					◆	◆		木曜日：午前のみ
	下部消化管外科	◆					◆			◆		
	肝・胆・膵外科				◆	◆				◆	◆	
	血管外科		◆		◆			◆				木曜日：午前のみ(下肢静脈瘤)
専門外来	肥満減量外来					◆					◆	
	緩和ケア外来	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	
脳神経外科	**受付電話　435－2644**											
	初診・再診	◆	◆		◆	◆		◆		◆	◆	
整形外科	**受付電話　435－2647**											
	初診・再診	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
専門外来	教授外来（脊椎）	◆			◆		◆			◆		
	骨粗鬆症				◆					◆		
	リウマチ			◆	◆				◆	◆		
	手・末梢神経			◆					◆			
	脊椎	◆					◆					
	腫瘍			◆					◆			
	股関節					◆					◆	
	肩関節					◆					◆	
	膝関節・スポーツ					◆					◆	
	小児整形	◆					◆					
	ヘルニア							◆				

診療科名	診療日										備考
	初診					再診					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
皮膚科　受付電話　435－2650											
初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来 アトピー外来			◆					◆			
専門外来 脱毛症外来	◆		◆			◆		◆			
専門外来 乾癬外来		◆					◆				
専門外来 皮膚リンフォーマ外来				◆					◆		
泌尿器科　受付電話　435－2653											
初診・再診	◆	◆	◆	◆			◆	◆	◆		
専門外来 腎移植外来				◆					◆		医師交代制
専門外来 排尿障害外来		◆	◆				◆	◆			
専門外来 不妊症外来		◆		◆			◆		◆	◆	火曜日：第1、3、4、5週のみ
専門外来 腫瘍外来		◆	◆	◆			◆	◆	◆		
眼科　受付電話　435－2656											
初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火・金曜日：午前のみ
専門外来 網膜変性外来		◆					◆				
専門外来 斜視・弱視外来								◆			
専門外来 ロービジョン										◆	
専門外来 角膜外来									◆		第2週のみ（月により変更あり）
耳鼻咽喉科　受付電話　435－2659											
初診・再診	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
専門外来 腫瘍外来	◆			◆		◆					
専門外来 耳外来				◆					◆		
専門外来 耳鳴外来		◆					◆				
専門外来 難聴外来・人工内耳外来		◆					◆				
専門外来 睡眠時無呼吸・いびき外来					◆					◆	
専門外来 顔面神経外来		◆		◆			◆		◆		
専門外来 鼻副鼻腔・アレルギー外来				◆					◆		
産科婦人科　受付電話　435－2662　※女性医師ご希望の方はお申し出ください											
産科　初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
婦人科　初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来 婦人科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来 産科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来 腹腔鏡外来				◆					◆		
専門外来 漢方外来				◆					◆		第1、2、4週のみ
専門外来 母親学級											予約制
専門外来 助産師外来											要問い合わせ
専門外来 乳腺予防ケア外来											（午後に産科婦人科へ）
ＡＲＴ室　受付電話　435－2664											
不妊外来						◆	◆		◆	◆	
放射線科　受付電話　435－2665											
放射線治療科　放射線治療外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
放射線診断科　IVR外来		◆					◆				
麻酔科蘇生科　受付電話　435－2668											
初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
リハビリテーション科　受付電話　435－2747											
初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	要問い合わせ　午前のみ
専門外来 義肢・装具外来			◆					◆			
専門外来 嚥下外来	◆		◆			◆		◆			午後のみ
専門外来 痙縮外来		◆		◆			◆		◆		
専門外来 高次脳外来	◆			◆		◆			◆		
形成外科　受付電話　435－2496											
初診・再診	○	○	○	○		○	○	○	○		
歯科口腔外科　受付電話　435－2673											
初診・再診	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来 唇顎口蓋裂外来			◆					◆			専門外来の診察日は不定期のため、歯科口腔外科外来受付電話にお問い合わせください
専門外来 顎補綴			◆					◆			
専門外来 矯正歯科					◆					◆	

※市外からお電話の場合は、電話番号の前に市外局番（０５３）を付けてください。

浜松医科大学医学部附属病院